

# 29年10月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 10月1日～ 29年10月10日

## 2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
10月分の回答企業数は7社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### (1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/10月	11月	12月
仕入動向	国産材製材品	7.1	△ 14.3	△ 35.7
	外材製材品	14.3	△ 14.3	△ 50.0
	構造用集成材	16.7	△ 25.0	△ 50.0
消費動向	国産材製材品	0.0	△ 7.1	△ 28.6
	外材製材品	7.1	△ 7.1	△ 35.7
	構造用集成材	8.3	△ 8.3	△ 25.0
在庫動向	国産材製材品	0.0	△ 14.3	△ 35.7
	外材製材品	0.0	△ 21.4	△ 28.6
	構造用集成材	8.3	△ 25.0	△ 25.0

・プレカット加工用部材の仕入動向は、国産材製材品、外材製材品、構造用集成材とも10月の増加から11月、12月は減少に。

・国産材製材品の消費動向は10月の横ばいから11月、12月は減少に。外材製材品及び構造用集成材は10月の増加から11月、12月は減少に。

・在庫動向は国産材、外材製材品の在庫動向は10月の横ばいから11月、12月は減少に。構造用集成材は10月の増加から11月、12月は減少に。

### (2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	29/10月	11月	12月
受注	14.3	△ 14.3	△ 35.7
加工	21.4	△ 7.1	△ 35.7
受注残	0.0	△ 14.3	△ 25.0

・プレカット工場の受注・加工動向は10月の増加から11月、12月は減少に。

・受注残は10月の横ばいから11月、12月は減少に。

## モニターからのコメント

### (加工用部材荷動き)

・国産材製品の仕入は順調に推移。外材の仕入は値上りの影響で控えている。消費動向は国産材・外材とも予定(計画)通り。在庫動向は在庫調整に入る時期。構造用集成材は仕入・消費・在庫とも実績なし。

・当月、翌月の仕入は安定している。消費は、仕入同様に当月、翌月は安定していると思われる。但し、非住宅が今後どの程度入ってくるかによって変化あり。在庫は、翌々月まで消費を見ながらうまく仕入れを調整して横ばいに持っていきたい。

・外材・集成材など値上がりしている。

### (受注動向)

・受注・加工・受注残とも穏やかな減少傾向。需要は沿岸よりも内陸に傾いている。

・受注・加工とも当月も増。年内、このペースをキープしてほしいところ。

・繁忙期にしてはヒマである。